

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	三原 立也君
観光交流商工部長	阿比留忠明君
市民生活部長	村井 英哉君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	内山 歩君
水道局長	舍利倉政司君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	原田 武茂君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、3人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 皆さんおはようございます。

初めに、市内では多くの観光客でにぎわっていますが、一部の店舗先では外国人観光客による

ポイ捨て姿が防犯ビデオに記録されるなど、迷惑行為に嫌悪感を抱いている市民も少なくはありません。

担当部局は、関係者との御面談の機会がございましたら、再発防止策の啓蒙、よろしく願いをいたします。

さて本日は、3点、5項目について質問させていただきます。1点目は、観光客誘致の拡大策について。2点目は、加速する人口減少の最大の要因について。3点目は、救急救命搬送活動の展開についてお伺いいたします。

まず、1点目の観光客誘致の拡大ですが、年間を通した市内イベント情報の掲載手法についてお尋ねをいたします。

市内各地でイベントが開催されていますが、本市のイベント情報啓蒙の掲載は乏しく感じています。より多くの観光客誘致を進める上で、イベント情報の掲載は重要な役割の一つと考えています。

特に、商工会青年部主催のイベントを進める上で、市の役割はどのように捉えているかお尋ねをいたします。

2点目ですが、加速する人口減少の要因について、安定した人口確保に向け、出産前から高校卒業までの切れ目のない子育て支援策の具体的な施策が求められています。

直近5年間の分娩件数は減少傾向にあります。本市に限らず、国内の児童数の減少によって、学校の統廃合が加速しています。安定した島へと未来への主役へつなぐため、独自の子育て支援制度拡大や、移住定住化はどのように進めていますか、お尋ねをいたします。

3点目は、救急搬送活動の展開について、救急救命活動の具体的な取組をお尋ねをいたします。

日常生活において、突発的な症状に対し、消防機関への緊急コール受信によって救急車両による医療機関への搬送が行われています。軽症であっても救急車利用に対し、市民への正しい活用のための啓蒙活動は、どのように行っているかお尋ねいたします。

また、救急搬送車内での気管挿管処置、除細動処置、薬剤投与など、特定医療行為は対応できているのかお尋ねをいたします。

最後です。採用困難職種であります救急救命士採用後の勤続年数は短期間とお聞きしていますが、直近の救急救命士の採用、退職の動向についてお尋ねいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、観光客誘致拡大策についてでございますが、観光客誘致を拡大していく上で、歴史、自然、食などの魅力を発信していくとともに、市内で開催されるイベントについて、いっどこで

何があるのかの情報を広く発信していくことは、大変重要なことであると認識しているところであります。

年間を通じた市内イベント情報の掲載手法について、県内離島の他自治体と比較して、情報が乏しいとの御指摘でございますが、本市においては、イベント情報について、対馬市公式LINEで発信しており、今後はさらに登録者数の増加を図りたいと考えております。

令和6年9月2日現在の登録者数は、8,925人となっております。

また、対馬観光おもてなし事業として、市内で開催されるイベント情報について、対馬観光物産協会のホームページに掲載し、観光客誘客に向けた情報発信に努めているところでございます。

なお、市内で開催されるイベントについては、市が直接主催するもののほか、実行委員会等が主催し、市が共催、後援になっているイベントや、地域の有志の皆様が開催するイベントなど、大小様々でございます。

商工会青年部主催のイベントを進める上で、市の役割はどのように捉えているのかにつきましては、商工会青年部主催のイベントに限らず、市が共催、後援となっているイベントについて、主催者と情報共有を図りながら、情報発信の場をバックアップしていく必要があると考えております。

記憶に新しいところでは、対馬巖原港まつりにおいて、ORANGE RANGEが出演され、市外からもファンが訪れたということを聞き及んでおります。

今後におきましては、開催趣旨と受入体制の状況等を慎重に判断し、対馬市福岡事務所を拠点に、本市に近接する大都市福岡において、ラジオなどによるイベント情報の告知を行うなどを検討し、さらなる情報発信の強化及び観光客誘致の拡大に努めてまいります。

次に、安定した人口確保に向けた切れ目ない施策についてでございますが、さきの3月定例会一般質問に引き続いての質問であり、今までも各議員からの一般質問等において答弁させていただいており、重複する部分もありますが、改めて対馬市の現状と方向性について答弁させていただきます。

対馬市の人口減少及び少子高齢化等に伴う産業後継者不足を抑制することを目的とし、必要な支援や援助及び移住等に関する情報発信の総合窓口として、対馬市しまぐらし応援室を設置し、UIターン推進事業及び担い手確保対策に取り組んでおります。

UIターン推進事業においては、市内及び福岡市内において合同企業説明会を実施するほか、都市部で開催される移住相談会等へ参加し、各種支援制度等の情報発信を行っております。

併せて、条件を満たす移住希望者には、各種補助金申請を受け付け、助成をしているところでございます。

移住者の令和5年度実績は、UIターン件数96件、人数は167人であります。うち結婚、

就職、家業継承で55件、39歳以下は107人で、全体の約65%となっており、一定の成果が得られたと認識しております。

ここで、現在取り組んでおります支援について、お手元のタブレットの会派代表一般質問のフォルダーの中に、移住定住支援事業及び結婚から子離れまで、切れ目のない行政サービス一覧を掲載させていただいておりますので、取組事業等の詳細については御確認をお願いいたします。

また、6月定例会一般質問において、検討中として答弁しておりました新たな子育て支援策につきましては、乳児に必要な紙おむつやミルクなどの購入費の一部助成について、今回の補正予算に上程させていただいておりますので、よろしくお願いをいたします。

対馬市の将来を見据えた時、対馬で生まれ育ち、対馬で活躍する人材育成確保が重要であることから、これまでの出産前から高校卒業までの切れ目のない子育て支援施策に加え、若年層の担い手確保及び人口減少対策等の問題解決に取り組むため、関係部署が連携できる体制を構築し、現行制度の検証や新たな事業の取組を含め、市独自の魅力づくりに努めてまいります。

次に、3点目の救急救命搬送活動の展開についてでございますが、まず救急救命活動の具体的な取組としましては、各種事業者や学校での救命講習に加えて、心肺蘇生法やAEDの使い方、けがの手当など、応急手当の方法を習得していただけるよう毎週土曜日、要請があれば消防署での普通救命講習会等を実施しております。

また、救急医療週間には、ケーブルテレビ等で救命措置の重要性を市民の皆様にお伝えするとともに、救急車の適正利用についてお願いをしているところでございます。

近年、救急車の出動件数、搬送人数はともに増加傾向で、そこには救急車で搬送された人の約半数が、入院を必要としない軽症であるという要因もあります。

また、全国的な統計では、救急車で病院に行ったほうが早く見てもらえると、誤った考えを持った方も一部おられるようでございますが、通院手段に関係なく、医療者が問診等から患者さんの状態を判断し、緊急性の高い方から処置を行っておりますので、救急車で病院に搬送されたとしても、それだけで他の患者さんより優先されることはないと考えております。

現在、対馬市消防本部には8台の救急車を配備しておりますが、出場件数が増加すると、現場から遠い救急車が出場することが増え、1分1秒を争う、現場への到着が遅れる恐れがあります。

そこで、このたび皆様に上手に救急車を利用いただくため、救急安心センター事業、通称＃7119を長崎県では8月1日より開始したところであります。

この事業は、家族の様子が何となくおかしいけど、救急車を呼んだほうがよいのか、具合が悪いけど、病院に行ったほうがよいのかなど、判断に迷うことがある場合に、専門家からのアドバイスを通して判断を手助けし、電話口で医師、看護師等がお話を伺い、病気やけがの症状を把握して、救急車を呼んだほうがよいのか、急いで病院を受診したほうがよいのか等を案内するものであ

ります。

救急車や救急医療は、限りある資源でございます。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる地域社会の実現を目指していきたいと思っております。

次に、特定医療行為は対応できているのかということでございますけども、現在、対馬市消防本部では、救急救命士27名及び救急隊員49名で運用を行っております。

そのうち、特定医療行為の認定を受けている救急救命士は、医師からの具体的な指示のもと、医療器具を用いた気道確保や、心臓機能停止状態にある患者への薬剤投与等4つの特定医療行為を行うことができます。

特定行為の内容で認定を受けている救急救命士の数は異なりますが、8人から27人が認定を受け、配属されており、特定行為は必要な患者に対応しているところでございます。

過去5年間の特定行為の実績としまして、1、気管挿管9件、2、薬剤投与30件、ショック輸液9件、ブドウ糖投与14件となっております。

次に、直近の救急救命士の採用、退職の動向についてでございますが、過去5年間の実績では、採用が1人、退職が7人、研修を修了し国家試験に合格した者が11人となっております。

救命士の人員的な余裕はなく、希望する曜日に休暇を容易に取得できる体制となっておらず、また特別休暇等で救命士不在となった場合は、非番の救命士が代勤で勤務しているのが現状でございます。救命士の負担軽減を考えれば、前述した救命士代勤をしなくてもよい体制構築が必要と考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 今から少し再質問のほうで具体的にいろいろお尋ねしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、1点目の観光客誘致の拡大についての再質問でございます。

本市のイベント運営のための啓蒙活動は、円滑な運営に向けて実施日の数か月前から実行委員会組織を立ち上げ、取り組まれています。より多くの御参集を求めるために、実行委員の皆様は本業の傍ら、成功裏にイベントを行う上での様々な広報活動が行われています。

広域ではSNS、市内向けではパンフレットやCATV放送などの媒体で行われています。

やはり実行委員の気持ちを代弁しますが、市の御協力など何らかの関わりがないといけないのではないのでしょうか。市としては民間組織という意識の中で、どのような役割を演じるか。課題であることは重々承知しております。イベントでの有名アーティストの招聘には、全国各地から熱烈なファンが来島されています。先ほど市長もお話されましたけれども。

一昨日の市長の行政報告で、厳原地区、それから上対馬地区でのイベントの御報告がございま

した。

このように、観光客誘致を念頭に、さらに御家族で楽しむ豊富な内容で毎年変化した計画がなされております。

市長の立場で、イベントに御案内された中で、もっと市に関わるべきであるのではないかと感じられていると思いますが、市長の御見解、御感想何かございますでしょうか、よろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今年の厳原港まつりにおきまして、先日のORANGE RANGEの公演につきましては、私も最後まで見ておりましたけれども、ここ対馬市で本当に人口減少問題が起きているのかなと思わせるような、若い方たちのにぎわいがありました。

そういうことで、私はこのことを対馬市の公式LINEのほうで見ておりましたので、このORANGE RANGEの公演があるということは承知しておりましたけれども、ただ公式LINEにまだ加入されてない方については、この周知が足りなかったのかなと、今議員の質問のほうを聞いて思っております。

そういうことで、このことについてはまた担当部署のほうといろいろと検討を開きたいと思っておりますけれども、先ほど答弁もいたしましたように、福岡事務所を通じてラジオ等での周知も順次開催、開いていきたいという思いを持っているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。確かに広域のイベントになりますと、広域にいろいろ啓蒙活動は当然必要です、これは。

今まではラジオ等で活用されて進められたことは、例えば市内のいろんな食べ物、食品フェアですか。このあたりは過去にラジオ放送でなされたことは私も承知をしておりますけれども、このような大きな市内でのイベント、青年部のほうで、商工会青年部を中心にした活動をされておりますので、是が否でも少し皆さん啓蒙活動が全国的にされるように、ぜひ市のほうも関わりをお願いしたいなと思っております。

イベントを行うに当たって、イベントを始める前から終わりまで、後片づけまで大変な状況です。それぞれ業務の方はなされておりますので、市のほうで少しでもお手伝い等ができる状況であります、何らかのサポートを是が否でもお願いしたいなと。今後のことも踏まえてしたいなと思っております。

この件につきましては、終わりたいと思います。今後可能な限り、御対応よろしく願いをいたします。

2点目につきまして、少しグラフ等を準備しておりますので、この資料に基づいて御説明をさ

せていただきたいと思います。よろしくお願いします。

2点目につきまして、加速する人口減少の最大の要因について、資料に基づいて再質問いたします。よろしくお願いいたします。

この資料は、直近5年間の分娩件数の推移です。グラフにつきましては、作成に当たりましては、対馬病院から直接いただいた数値を参考に、2019年から2024年までの5年間の分娩件数を表しています。

統計学的には、出生数ということでございますけれども、あえて分娩数として表しております。

赤で示した2024年、右は7月までの実績値を参考にした見込みの数値です。上部の白色は里帰り分娩数で、2024年は7月までゼロという報告を受けております。

2019年の件数は134件、翌年以降は120件で、2022年から90件、2023年は84件と、減少傾向が伺えます。

この分娩件数の推移を見られて、市長のほうで何か御感想ございますでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私もこの資料を見まして、この出生数が特に2022年から極端に落ち込んでいるということにつきまして、驚きを持っております。

ただ、職員のほうともこのことについていろいろと検討をしてみたときに、むしろ里帰り出産ではなくて、対馬に居住してある方が、むしろ本土のほうの親元のほうで出産をされてある方もいらっしゃるということで、ここではちょっと見えてないといったようなことも、ある職員は指摘をしておりましたけれども、ただそれはそれといたしましても、この2022年から極端に落ち込んでいるということについては、本当に対策が必要なものというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。逆バージョンもあるんですね。そのことを私は今初めてお聞きしました。島外のほうで出産されているということは初耳でございます。

それは別にして、いずれにしても、年々減少傾向にございますので、このことは施策のほうで十二分に今後進めるべきではないかなと思っておりますので、これもあくまで参考値ということで御理解いただければなと思っております。

それから次の資料です。この資料はSDGs推進室の前田さんから提供された資料でございます。2020年の本市の人口割合を地域別に示した資料で、御承知とは思いますが、雞知周辺に人口構造が集約しているのが確認されます。

このように、雞知周辺の人口は、このまま進むことと推測をしておりますが、市内181の行政区全体が大きな円で維持されることを期待しているところでございます。島全体の人口減少を

いかに止めるかが鍵ですが、例年転入を見込んでありますが、御家族での子育て世帯の転入が最も効果的ではないでしょうか。

子育て世代転入に向けて、何か取り組まれている施策はございますでしょうか。具体的にあれば一番いいでしょうけれども、何かありますでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、答弁の中でも申し上げさせていただきましたけれども、今回の補正予算のほうに上程をさせていただきました。

新生児のおむつ、そしてまたミルク代といったことで、1年間、月に最大1万円ということで計上をさせていただいております。

これからいきますと、通常年間12万円の助成をして、子育てをしやすくしていきたいという思いで計上をさせていただきましたので、御活用をお願いしたいという思いでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 市長も御承知と思いますけれども、我々の若いときは2人で働いて1人分がほとんど子育てに取られた。そういう状況でございました。なかなか厳しい状況でございましたけれども、今少しずつその辺は緩和されているのかなと。市も県もある程度は予算化している状況でございますので、この件は子育てがしやすいように啓蒙をぜひ強力に推し進めていただきたいと思います。と思っています。

次に移ります。次は資料3でございます。

人口減少につきましては、都市部を除いて地方の最大の課題ということでございます。この資料は、日本製鉄名誉会長を議長に、岩手県知事や総務大臣を歴任されました増田寛也議長さんなどの有識者で作る人口戦略会議での、本年8月に公表された内容でございます。

分析結果を確認いたしますと、2020年から50年までに全国の1,729自治体の4割に当たる744自治体で、20歳から39歳までの女性人口が50%以上減少し、消滅する可能性がある。

また、2014年の同様の分析結果では、約50%の自治体が消滅可能性に該当しているが、今回はその数が減ったが、少子化基調は変わっていないと報告されております。

人口減少については、極めて深刻な様相を呈しておりますが、人口の底辺部分に政治力を大いに発揮した状況でなければならないと痛感しているところでございます。

この人口戦略会議、暗い話ですけど、市長としてこのあたりを踏まえて、今後対馬市の市政をどう進めるか。もし意気込み等ございましたら少しお願いしたいなと思っています。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この人口戦略関係では、対馬市はこの消滅可能性都市に入っているわ

けではございますけども、ここから脱皮していくためには、かなりの高いハードルを超えていかなければならないという思いを持っているところでございます。

道は厳しいところではございますけども、できる限りの施策を試みながら、人口減少問題に取り組んでまいりたいという思いを持っております。

○議長（初村 久藏君） 6 番、伊原徹君。

○議員（6 番 伊原 徹君） 大変厳しい状況と私も重々承知をしております。これからどうすべきか。市の担当課だけではどうにもできませんので、何らかの形で組織づくりが必要なというふうに、個人的には考えております。今後ともいい方向に進むようお願いしたいなと思っております。

それから、4 番目の資料でございます。この件につきましては、以前口頭でお話をさせていただきましたが、今回は資料に基づいて進めさせていただきます。

岡山県の奈義町の子育て支援について御紹介をさせていただきます。山陽新幹線の岡山駅から2 時間以上要する人口 6, 0 0 0 人以下、約 2, 5 0 0 世帯から構成された岡山県奈義町、また 6 0 0 人規模の陸上自衛隊が常駐しているという情報を得ております。

奈義町におきましては、1 5 歳から 4 9 歳までの女性の年齢別出生を表す合計特殊出生率、徳之島伊仙町を抜き、全国 1 位の 2. 9 5 であります。

ちなみに直近の合計特殊出生率の全国平均値は 1. 2 ですので、奈義町の出生率は極めて高い数値を示しております。

本市の第 2 次対馬市総合計画に掲げています出産から子育て、老後の生きがい対策を充実させることで社会減に一定の歯止めをかけるとの目標を掲げています。

ここでお尋ねいたしますけれども、総合計画基本目標には安心して結婚・出産・子育てができる環境を創出するとありますが、本市の 2 0 1 8 年合計特殊出生率の実績値は 2. 1 8 でありました。また 2 0 2 5 年では 2. 4 0 を見込んであります。

出生率の算定は長崎県が行っていますが、2 年前の 2 0 2 2 年では 1. 7 7 とお聞きしております。

あまりにも直近の実績値と計画値が乖離していますが、数値の修正が今後求められるんじゃないかと思っております。

本市の人口に直結しますけれども、このあたりは市長としたら十分な取組をなされていると思いますけれども、ここでも具体的にどうのこうのということはないと思いますので、教育長にちょっと別件のお尋ねをしたいと思っております。

1 9 8 8 年から 2 0 2 3 年までの 3 5 年間で、小学校が 2 4 校、それから中学校が 1 5 校が廃校となり、本市に限らず、少子化によって児童数減少というゆゆしき事態に陥っています。

このことによって児童数が年々減少していますが、教育行政のトップとして、現状をどのように捉えていますか。よろしくお願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 御質問ありがとうございます。御指摘のとおり、子どもの数の減少は続いておりまして、ピーク時は昭和35年が小学生、昭和37年が中学生が一番対馬市で多いときだったんですが、そのころは小中学生だけで1万7,000人在籍をしております。

今年度の最初、小中学生の合計は1,840人。ここあと二、三年でピーク時の10分の1になるというような状況がございます。

国立社会保障・人口問題研究所の統計によると、今から15年後の2040年には、小中学生の数が1,000人前後になるのではないかとということが推測をされています。

そうすると、今現在のさらにまた半分になると。これがこの15年のうちにやってくるということで、教育行政の立場からも非常に危機感を持っております。

真っ先に思い浮かぶのが、学校の統廃合なんですけれども、これまで学校の統廃合については、方針の中で、複式学級をできるだけなくしていくということでやってまいりましたが、これが第一義ではもう到底対応できない状況になってきております。

ですからこれからは、学級数ではなくて、子どもたち一人一人をウェルビーイングといいますか、が暮らしやすい、生活しやすい、通いやすい学校づくりにシフトしていかないといけないなと。

もう一つは、今コミュニティ・スクールを進めていますけれども、これについて、ますます学校の通学区域が広がったために、地域との結びつきがだんだんだんだん希薄になってきているという課題も生じてきております。

ですから、今進めているコミュニティ・スクールの中において、地域の皆さんと学校との関係を希薄になっていかないようにということを心がけていく必要があると考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。複式学級は若干、今後も増えつつあるのかと思いますけれども、今は難知とそれから厳原、それから上対馬、ここにも複式学級はないでしょうね、今のところは。

コミュニティ・スクールの確保というお話がございました。確かに地域に子どもの声が聞こえないということは、非常にわびしい寂しい限りでございます。平日はそういったことで学校に行っておりますので、その関係で子どもの声は聞こえませんが、休みになるとそれなりに地域内で自転車でかけ回ったりいろいろしております。

私たちも実際自分たちの小中学校時代とは随分変わったなと思っております。それについては、当然大きな企業がございましたけれども、その企業が撤退ということもあります。

このことは教育現場におかれましても、今後同様に頭の痛い切実な状況かと思っておりますので、教育行政のトップとして、今後そういった学校編成がないような仕組みづくりを是が否でもお願いをしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次の5番目の資料につきましては、先ほどの奈義町の子育て支援策です。この件は時間の関係で少し、今の対馬市の本市の状況と確認しながら進めていただきたいと思います。

先ほども申しましたけれども、この奈義町では子育て世帯の転入を促す施策のために、独自の支援策を掲げています。

岸田内閣は異次元の少子化対策を掲げる中、昨年2月、この奈義町に岸田総理が御自身が訪問されております。それなりに子育て支援が充実した地域でございますので、もし参考になれば、今後対馬市としてどうするかということも、ひとつ手だてじゃないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後の資料でございます。これはSDG s 未来都市に選定された子育て支援が充実している自治体ということで、持続可能な活気あるまちづくりにSDG s を組み合わせた取組を行っている4つの都市の紹介をしています。

千葉県松戸市、東京都板橋区、愛知県一宮市、鳥取県鳥取市。括弧内は人口を表しています。それぞれの支援策は時間の関係で割愛させていただきます。

本市は、2020年7月にSDG s 未来都市に選定され、7企業3団体とのパートナーシップを結んでおられますが、この中に子育て支援策を盛り込んでいただきたいと考えておりますが、その状況はないですか。あるんですか。市長何かそのあたり、少し御説明よろしゅうございますか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、三原立也君。

○しまづくり推進部長（三原 立也君） 伊原議員の御質問にお答えさせていただきます。

今、本市のSDG s の取組につきましては、環境問題を切り口に取組を進めさせていただいておりますけれども、今後こういった子ども向けの対策とか、そういったものも含めて展開できればとは考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） その内容がちょっと見え隠れしているのかどうか分かりませんが、ちょっと理解できなかったものですから、このことにつきましてこの4つの自治体同様に、子育て支援については十二分に取り組む必要があるんじゃないかと思っておりますので、よろし

くお願いいたします。

誰一人取り残されることなくということで、いつも市長がおっしゃっておりますけれども、いつまでも安心安全な対馬で暮らし続けられることをキーワードに遵守されることを願いつつ、市民それから行政、議会が一体となって子育て支援を遺漏のないように、しっかりと取り組んでまいりましょう。よろしくお願いいたします。

以上が2点目、それから最後の3点目に進みます。

3点目の救急救命搬送活動の展開についてということで、いろいろ市長のほうから御説明いただきました。

確かに救急活動の中で、当然救急救命士がいないと搬送自体ができかねますので、救急救命士の確保、これはもう非常に重要なポイントだと私自身も思っております。

今年の6月でしたか。茨城県は不要不急な救急車利用を減らすため、緊急性のない搬送だったと判断された場合は、利用者から追加費用を徴収できるという仕組みづくりをされたというふうに報じられておりました。

お隣の韓国では、救急病院の前で救急車が数時間、待機している現状だそうです。これは受入体制の問題だと思っております。このことは、もう消防長も認識されてあると思いますけれども、救急車内のいろんな医療活動、これはもう重要な救命活動、医師の判断によっていろいろ取り組まれているという御様子は十分私も確認をいたしました。

このことは、今後も必要な事案でございますので、是が否でも取り組んでいただきたいと思います。

それから、救急搬送車内での、気管挿管だとか除細動だとか薬剤投与等の特定医療行為につきましては、ある程度行われているというふうに、今市長のほうから御答弁いただきました。

私が一番懸念しているのは、救急救命士の退職が少しここ近年増加傾向にあるのではないかと。いうお話をちょっとお聞きしたものですから、先ほどちょっと具体的に数値が5年間の数値がございましたけれども、もう一度すみません。退職者と採用状況をもう一度よろしゅうございますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 直近の救急救命士の採用、退職の動向ということで、過去5年間の実績では、採用が1人、退職が7人、そして研修を修了して国家試験に合格した者が11人ということでございます。

さらにこの直近の何といいましょうか。これは入っていなかったな。申し訳ございません。ちょっと入っていません。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6 番、伊原徹君。

○議員（6 番 伊原 徹君） ありがとうございます。消防長に少しお尋ねしたいと思います。
救急救命士の島外の御出身者は何名ほどいらっしゃいますか。

○議長（初村 久藏君） 消防長、井浩君。

○消防長（井 浩君） 失礼します。伊原議員の質問にお答えします。

島外者は現在、救命士2名でございます。

○議長（初村 久藏君） 6 番、伊原徹君。

○議員（6 番 伊原 徹君） ありがとうございます。2名ということで、今後も恐らく増えるのか減るのかちょっと私もよく分かりませんが、非常に人手不足ということですので、消防活動に支障のないような状況を今後もぜひ取り組んでいただきたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

報告します。初村議長から早退の届出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 皆さんおはようございます。14番議員の小宮でございます。
私の持ち時間は50分でございますので、皆様よろしくお願いをいたします。

私もそうですけれども、皆さんもそうだと思うんですが、朝起きて、テレビのチャンネルをポッと押すんですけれども、そうすると一番先に飛び込んでくるのは、大谷翔平選手の活躍がすぐ目に飛び込んでまいります。

アメリカの大リーグの歴史は150年、約150年あるそうです。150年の前のこの日本はどうかというと、15代将軍の慶喜公が大政奉還をした1867年ぐらいに当たります。

この大谷選手、もう既にこの大リーグの記録を塗り替えて、さらに50、50ですか。50本のホームランと50個の盗塁という大きい目標に向かって頑張っておられます。

日本の人はほとんどテレビを見るわけでございますが、朝からこれを見ると元気と勇気をいただきます。これはまさに、我が日本国の誇りであります。

そしてアメリカは、いつでしたか。11月の5日に大統領選がございます。これには女性のハ